

第39回世界獣医史学会報告

安田 隼也¹

地中海を望むトルコのアンタルヤにおいて2010年9月20日から23日の4日間にわたって、第39回世界獣医史学会大会(WAHVM)が盛大に開催された。参加者は欧米を中心に世界16カ国からおおよそ100名で、特にトルコでは獣医史学教育が盛んに行われているため同国の教員や学生が多く参加していたことが印象的であった。

会場は二つに分かれており、一方は英語とトルコ語の同時通訳のあるメイン会場で、ほとんどの講演がここで行われた。もう一つの会場では、同時開催となったトルコ獣医史学会の講演会が行われており、職業倫理など興味深い話題があったが、トルコ語のみの講演のため実際に話を聞くことは出来なかった。

ポスターセッションはメイン会場の後方にあり、トルコで発見された獣医史学関連の遺物やスペインの獣医学博物館の取り組みなどが発表されていた。

今回の主要テーマは、文明の十字路口であるトルコにふさわしく、東西の獣医学の交流や病気の伝播の歴史などであった。インフルエンザの歴史、狂犬病の歴史、トルコにおいてドイツ人獣医師が果たした役割など、さまざまなテーマが取り上げられた。この他にも、トルコにおける近代獣医学の黎明期に陸軍獣医学校が果たした役割や、アメリカのカンザスシティーにあった私立の獣医学校の歴史など、教育に関するトピックスも多くとりあげられていた。また、若手研究者の優秀論文を表彰する Young Scholars Award Projectで優秀賞に選ばれた3題の発表と表彰があった。

大会の最初には、世界獣医師連盟(WVA)のJorna会長からの挨拶やWVA大会の歴史(戦争のためにわずか数時間で終了した1914年大会の話など)に関する招待講演があり、また本年(2011年)のWorld Veterinary Yearについても言及された。

最終日前日のガラディナーでは、トルコ獣医史学会会長のDinçer先生のハーモ

YASUDA Junya : WAHVM report

1. 日本獣医史学会理事 連絡先: 安田隼也 〒152-0034 東京都目黒区緑が丘1-5-22

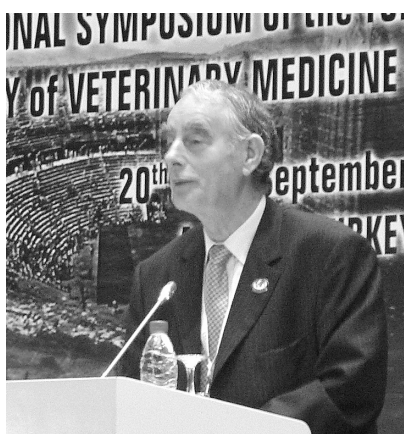
(2010年10月15日受付)

ニカの独奏もあり、会場は大いに盛り上がった。

なお、次回の大会は2012年8月22日から25日にオランダのユトレヒトで開催される予定である。メインテーマは各国の獣医関連団体の歴史で、日本からも是非演題を出して欲しいと要望があった。主催者側から一人でも多くの日本から参加者があることが望まれている。



第39回世界獣医史学会大会での記念写真(2010年9月)



第39回世界獣医史学会大会で講演する
世界獣医師連盟(WVA)のJorna会長



世界獣医史学会会長オランダのKoolmees教授(右)
と筆者